

校長室だより		令和5年11月13日発行
<b>共学共高</b>	第	発行責任者
	57	白梅学園高等学校長
	号	武内 彰

## 沖縄修学旅行～その1

本校の修学旅行は、3つのコースからの選択制となっている。すなわち、オーストラリア・ケアンズコース、北陸・関西コース、沖縄コースから生徒がそれぞれ選ぶのである。ただし、今年度は春の時点で現地での体験等が再開されていなかったことからケアンズは断念し、北海道コースへと変更した。来年こそはケアンズコースを再開したいものだ。

私は沖縄コースの引率を担ったので、その報告をさせていただく。

11月6日（月）、朝7時30分過ぎに羽田空港第2ターミナルの集合場所へ到着すると、すでに北海道コース引率のK先生が到着していた。挨拶を交わすと、沖縄コースの団長であるK先生もすでに到着しているとのことであった。すぐさま、数名の生徒が続いて到着した。北海道コースの生徒集合時刻は8時30分であるから、かなり早く集合していることになる。沖縄コースの生徒集合時刻は9時である。北海道コースの生徒たちに「楽しんできてください」と声をかけて、見送りをし、沖縄コースの集合場所へと戻る。

保安検査場を通過し、搭乗口まではスムーズに移動することができた。搭乗口でフライト時間まで過ごす生徒たちも楽しそうに会話をしたり、写真を撮ったりしている。2学年主任のK先生も「おうちに帰るまでが修学旅行ですから・・・」と話していたように、引率者としては無事に保護者の元へお返しすることが最優先である。それと共に、安全確保に配慮しつつ、生徒との触れ合えることも楽しみの一つである。

初めて飛行機に乗る生徒もいるので無理もないことだが、離陸の瞬間は白梅生の座席から歓声上がる。隣のG先生に「毎年、見られる光景ですよ」と伝えたと、笑っていた。飛行機の窓からは雲間に富士山が見える。まだ、少しの冠雪しかないようだ。



那覇空港へ到着すると、貸し切りバスに乗車して「ひめゆり平和祈念資料館」へと向かう。まずは、ひめゆりの塔で、生徒たちが折った千羽鶴を奉納する。ひめゆりの塔は言うまでもなく、1945年の沖縄戦で亡くなった女子学生や教師たちの慰霊碑である。白梅生たちと同世代の女子学生たちであるから、生徒たちも感じ入るものがあるようだ。資料館では、どの生徒も展示物や証言映像などを細かく見入っており、最後尾にいる私がなかなか館内に入ることができない。これだけしっかり知ろう、学ぼうとする生徒たちの姿に感心する。展示されている女子学生たちの笑顔の写真が印象的だ。聡明で学校生活を満喫している様子が伺える。だからこそ、その生活を奪われ、生命まで落とすことになったのは、さぞかし無念であったらと思う。生きてくても、生きられない、それはどれほどの悲しい現実であったことか。



再びバスに乗車し、「沖縄県平和祈念公園」へと向かう。資料館からは10分ほどの距離にあるところだ。まずは、「平和の礎」で東京都の戦没者の方々のお名前が刻まれた石碑を見てから、集合写真撮影である。眼下には美しい海があり、豊かな自然があることがわかる。

その後、資料館内を思い思いに見学する。戦争体験者の手記を読むと、当時の大変な状況が手に取るようにわかり、痛ましい気持ちになる。ここでも生徒たちはしっかりと学び取っていた。



再びバスに乗り、宿泊するホテルへと向かう。沖縄本島で宿泊するホテルはなかなか贅沢なものである。私もプライベートで宿泊できるかどうか定かではない。部屋や食事でも生徒たちにとって、満足のいくものだったようだ。夕食はビュッフェスタイルで、生徒たちもよく食べている。かつては学校でも黙食といった指導をしていたが、今ではそのようなこともない。笑顔で会話を楽しみながら、食事をとる、これが本来の姿だな、と心の中でつぶやきながら生徒たちを見ていた。(つづく)



(共学共高とは：本校のディプロマポリシー（育てたい生徒像）の一つで、「共に学び、共に高め合う」生徒の姿を表す)